

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
 ☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>
 第632号 2022年10月9日

鈴木真主任司祭 主日ミサ説教

2022年7月31日 年間第18主日 C年
 ルカ福音書 12章 13-21節

一見、感じ悪いたとえに見えちゃいます。貯蓄は罪なのか…？みたいな。でも、よく読むと、このたとえに出てくる金持ちは、最初から最後まで、自分のことしか考えてないということにすぐに気づかされます。日本語訳ではわかりませんが、原文だと「わたしの作物」「わたしの倉」「わたしの穀物や財産」というふうに、全部「わたしの」という文になっているそうです。要するに、すべては自分の手柄なのだから、それゆえに、すべてを自分のために使おうとしている。それはそれで、かなり感じ悪いですよね。「どんな貪欲にも注意を払い、用心なさい。」

確かに、人の欲とは限りなく、恐ろしいものです。本当は、自分の能力、働き、才能など、すべては神さまから与えられたものであるのに、わたしたちはつい、すべてが自分の手柄だと思いたくなります。でも、そんなわたしたちに、神さまは、いつもこう語られているんでしょう。「その、あなたに与えられたものを誰かのために使いなさい。それを誰かと、分かち合いなさい。」

第2朗読の『コロサイ書』で「貪欲は偶像礼拝に他ならない」とあります。聖書において「偶像礼拝」とは、自分に都合のいい〈神〉を自分で作り出してしまうことです。やはりここでも、いつも言うように「神さまは」でなく「自分が」になってしまっ

ているんでしょう。

「神の前に豊かになる」とは、神さまこそが、神さまのみが、わたしたちを豊かにしてくださる、それも神さまの目から見た「豊かさ」に。自分、ではなく、神と人へと目を向ける時、それが見えてくるものなのかもしれません。

「心が豊かになる」のは、誰かと何かを分かち合えた時、誰かと互いに支え合っていることを感じる事ができた時、そして何よりも、すべてそれが神さまのわざであることに気付いた時でしょう。

「神の前に豊かになる」者となれるよう、共に祈りたいと思います。